

丸山知事(以下知事) 島根県の人口は長らく減少傾向が続いており、現在は約67万人です。人口減少に打ち勝つためには、次世代を担う存在を島根に増やすことが必要です。若者や子どもたちが増えて活気にあふれ、県民一人一人が愛着と誇りを持って幸せに暮らし続けられる島根を目指し、2020年3月、「島根創生計画」を策定しました。実現のため、第一に掲げたの

### 若者や子どもたちを増やし人口減少に打ち勝つ

島根県人口の減少傾向が続く中、多くの若い世代に島根で暮らすことを選択してもらうことは、地域の活性化に欠かせません。「島根創生計画」を掲げ、人口減少に打ち勝つて、笑顔で暮らせる島根を目指す丸山達也知事と、県内唯一の国立大学として、地域のステークホルダーと協働して次世代を切り拓く人材育成に努める服部泰直学長に、産官学協働による「島根創生」の実現について話を聞きました。

が、県内各産業の活性化によって所得を向上させ、魅力的な仕事を増やすことです。バラエティに富んだ、ボリュームある産業を活性化させ、「島根には働きたい場所がない」という声を解消します。島根の合計特殊出生率は1.69と全国2位(2020年)。育児をしながら働く女性の割合も全国トップクラスです。保育所の待機児童ゼロなど、子育てと仕事を両立しやすい環境が整っているのが要因だと考えています。今後、市町村とも協議しながら、放課後児童クラブのニーズへのさらなる対応や、子ども医療費助成制度の充実などを図ることで、今以上に子どもを産み育てやすい地域づくりを目指しています。

服部学長(以下学長) 県内に定着する学生を育てるために、まず、現在約2割程度の県内高校出身の入学者を増やすことが重要だと考えています。特に医学を含む理系学部の定員数は全体の約3分の2を占めるにもかかわらず、県内出身者の割合は15%程度と低いのが課題です。要因の一つは、大学で学ぶ工学や農学系の学問は、小中高校で学ぶ理科や数学の授業か

らはイメージしづらい点です。高校生に、大学での学びだけでなく就職まで意識したキャリアパスを示し、島根で働くイメージを抱いてもらえればと考えます。

知事 県民の暮らしやすさを向上させるのが第二ですが、県外の人に島根の魅力を発信することも大切です。コロナ禍で国はテレワークを推奨しましたが、大企業でも意外と進まず、依然都市部の住民は長距離通勤を余儀なくされています。一方、島根での暮らしは、職住接近でプライベートな時間をもちやすいのが大きな強みです。豊かなライフスタイルのあり方をもっと発信していきたいと思えます。

学長 県外出身者に卒業後、島根に残ってもらうために、偏差値に依存した進路選択ではなく、島根大学や島根そのものに魅力を感じて欲しいと考えています。また、TSKグループ、島根電工グループ、オネスト等の県内企業からの寄附による県内就職・定着を目指す学生に対する奨学金制度を始めます。県内の様々な方々と協力して卒業生の県内定着を実現していきます。

本学は2021年度入試から、



本対談は、感染防止に努めた上で一部マスクなしでの撮影を行っています。

# 島根大学 学長 服部 泰直 × 島根県知事 丸山 達也

HATTORI YASUNAO MARUYAMA TATSUYA

## 特集1 学長スペシャル対談

# 産官学協働による「島根創生」の実現に向けて

## Vol.50 CONTENTS

【特集1】  
学長スペシャル対談  
島根県知事 丸山達也氏 ..... 01

【特集2】  
SDGsの取り組み ..... 05

【特集3】  
大学発ベンチャー「PuREC」... 07

■留学生・留学体験紹介 ..... 09

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

①教育学部 長谷川 裕之 准教授 ..... 11

②医学部 大野 智 教授 ..... 13

③総合理工学部 小暮 哲也 准教授 ..... 15

■社会で活躍する卒業生 ..... 17

■たたら通信 ..... 19

■しまだい便り ..... 21

■学生広報サポーター企画 ..... 23

■サークル紹介 ..... 24

■島根大学支援基金より ..... 25

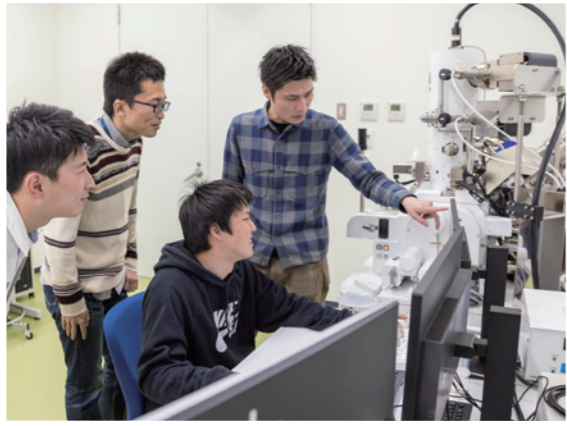
■読者プレゼント ..... 25

企画・制作  
株式会社メリット

デザイン  
有限会社node

タイトルロゴデザイン  
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

表紙/対談を行った服部学長と丸山知事



研究棟の最新機器を使って学ぶ学生の様子

ます。デザイン思考やデータサイエンスを学ぶとともに、長期インターンシップで企業との研究にも参加。オックスフォード大学との連携を核に国際性もしっかり育みます。アントレプレナーシップに富んだ有為なエンジニアを輩出していきたくと思っています。

**知事** 一社の企業では成し得ないことも、研究機関と行政、複数の企業が協創するプロジェクトだからこそ実現できるのです。島根は人口が少なく、企業数も少ない。しかしそれはハンディではありません。まとまりがあり、顔が見える関係だからこそ、意思決定が早く状況変化にも対応できるの

**小さいことは  
ハンディではない。  
まとまりがあり、変化に  
即応できる強みがある**



**丸山 達也**  
1970年福岡県生まれ。1992年自治省(総務省)入省。その後、埼玉県、長野県、島根県に転出。2016年4月から総務省消防庁国民保護室長を務めた後、2018年12月に総務省を退職。2019年に島根県知事に就任し、現在1期目。趣味は野菜栽培(プランター)、読書。座右の銘は「積小為大」「臨機応変」。

偏差値を中心に評価される世界からの脱却を目指し、多面的評価による総合型選抜「へるん入試」を導入しました。また、2020年に設立された県内高等教育機関と自治体、地元企業などによる地域連携プラットフォーム「しまね産学官人材育成コンソーシアム」を活用し、学生が地元企業や地域の魅力を知り、県内定着につながるよう、4年間の在学期間全体を通して、切れ間なく支援していきます。



2020年3月に開催された「しまね産学官人材育成コンソーシアム」協定締結後の運営会議の様子

**先端金属材料分野を核に  
“尖った”学びや産業を**

**知事** 「島根創生計画」では、若者の雇用を増やすため、「力強い地域産業づくり」を大きな柱として掲げました。その先導的な取り組みの一つが、2018年度から始まった「次世代たたらプロジェクト」です。産官学が連携して、先端金属材料のグローバルな生産拠点の創出を目指すもので、航空機エンジンの素材生産や超高性能のモーター用の素材加工など、どこにもできていないことを進めています。ここでしかできない、「尖った」学びや研究、産業を根付かせていきたいと考えています。

**学長** プロジェクトの研究・教育の中核を担う「次世代たたら協創センター」は、オックスフォード大学のロジャー・リード教授をセンター長に招へいしているほか、国内外の優秀な研究者らが名を連ねています。オックスフォード大学とは、毎月1回オンラインで研究内容を共有しており、今年度中には本学の研究者との共著論文が発表される予定です。学生もオンラインでリード教授を始めオックス



2021年4月にオープンした次世代たたら協創センター研究棟ロビー

フォード大学の先生による授業を受けています。地元企業に対しては、今年からセミナー方式のNEXTAフォーラムを実施し、プロジェクトの成果を県内の企業で活用できるような取り組みをしています。

さらに本学は、「次世代たたらプロジェクト」で伸びてくる材料科学分野を核にした、特色のある“尖った”学部—マテリアル創成工学部(仮称)の新設を構想しています。実務家教員を採用し、企業のニーズを見据えながら大学のシーズを作っていくような、産業界に直結した学部をイメージしてい

**人生観のトレンドを変え  
地方創生を実現する**

**知事** 地方創生を実現するためには、人間の人生選択のトレンドを変える必要があります。たとえば今までは、進学するなら県内より山陽や関西、偏差値の高い大学、住むなら人が多くてにぎやかで、電車がいっぱい走っているような町がいいとされてきました。選択肢が多い場所が輝いている町、地方は“負けている”といった東京中心の価値観がメディアなどによって流布されてきました。

しかし、近くに大きな繁華街や

ショッピング街があるにせよ、楽しむのは月に1度程度で、普段は長時間を通勤に費やし、ラッシュにもまれている人も多くいます。若く健康な人にとっては良くても、乳幼児や高齢者、彼らと生きる人たちにとっては暮らしていく面も少なくありません。今までは、東京の良さだけが社会全体の価値のよさに発信されてきました。しかし人生というスパンで生活全体を考えると、東京と遜色ない良さが島根にはあります。行政はもちろん、教育界、産業界それぞれが島根で暮らす良さ、東京にはない価値を努力して伝えていく必要があると思います。

**学長** 県外出身の学生が島根に残りたいと思うには、学生個々の人生観が変わることが必要と考えています。学生の琴線に触れる取り組みを行っていくことが重要だと思います。また、オンラインを指す大学としては、まず先端金属材料の研究では他に類がない存在に育て上げ、国内はもちろん国際的にも認知されるようにしたいです。島根で探究された学問が、地域貢献として根付き、島根の未来が拓けていけば嬉しいのです。

**学生の心に響く  
オンリーワンの魅力で  
選ばれる地域や大学に**

**服部 泰直**

1956年長野県生まれ。1993年4月島根大学理学部助教授、1995年6月島根大学理学部教授、同年10月島根大学総合理工学部教授、2011年10月島根大学総合理工学部長、2012年4月島根大学大学院総合理工学研究科長。2015年4月に島根大学学長に就任。趣味はサッカーで、国体出場経験も。

